

シンポジウム「働く世代のヘルスプロモーション」のまとめ

報告者：座長 佐甲 隆（三重県立看護大学）

来年度からの特定健診、特定保健指導を前に、働く世代のヘルスプロモーションをテーマに、有意義な議論が行われた。愛知県豊川保健センターの天下先生は、男性に好まれる保健事業の戦略として、自分がその教室の対象者であることを示し、教室内容や効果が見える工夫を行い、要点を単純明確に理論をしっかりと伝えることで、成果を挙げていた。また、静岡県富士市の佐野先生からは、職域健康リーダーとしてのボランティアキーパーソンに協力を求めながら地域と職域をつなげていることが報告された。また、三重県の企業「ミルボン」の橋本課長様からは、職員の気づきを重視したメンタルヘルス対策を行うことで、企業の管理サイドのモチベーションもあがり、意欲的になり、健康づくりを超えて、企業ビジョンの達成につながっていることが説明された。岐阜県東濃保健所の高木課長様からは、地域職域連携事業の中で、小規模事業所の健康管理や、退職者や主婦の健診受診率向上、健診後の保健指導データ管理につながっていることが報告された。最後に、愛知県半田保健所の木戸先生から、地域職域連携ワーキンググループによる情報の共有化や、健康づくり促進ツールの開発などが報告された。いずれも、立派な取り組みであり、参考になることも多く、参加者も十分啓発されたタイムリーなシンポジウムであったと考える。